たかつき未来パーク ワークショップ 実施報告

障がいのある子どもと家族とともに考える、安心して利用できる施設・運営の条件

1. 実施概要

名称	第 1 回 たかつき未来パーク ワークショップ
日時	令和 8 年 6 月 28 日（日）10 時 00 分から 12 時 00 分
会場	高槻子ども未来館 3 階 大会議室
対象	障がいのある子どもと家族
参加家族	5 組（保護者 5 名、子ども 2 名）
テーマ	外出の経験から考える、安心して利用できる施設・運営の条件
ワークショップ運営	たかつき共創パートナーズ株式会社
企画・進行・報告	株式会社 Halu

2. なぜ、利用される方と一緒に考えるのか

たかつき未来パークは、全国に先駆けた地域共生社会のモデル空間として、令和 11 年春のオープンを目指して整備を進めています。

「誰もが安心して過ごせる場所」を実現するためには、施設をつくる側だけで検討するのではなく、実際にそこで過ごす方の経験を、計画・準備の段階から取り入れていくことが欠かせません。

そこで、たかつき未来パークをよりよい場所にしていくため、さまざまな立場の方との対話を重ねており、今回は、障がいのある子どもとその家族を対象としたワークショップを開催しました。

3. 今回のワークショップで大切にしたこと

外出先について「行きたい」と思っても「行けない」と判断してしまうとき、その背景には、必要な設備の有無だけでは説明できないさまざまな不安や負担があります。そうした暮らしの

中の経験を丁寧に伺うことで、たかつき未来パークが本当の意味で「誰もが安心して過ごせる場所」となるために必要な条件を考えることを目的としました。

そのため、次の 3 点を大切にして実施しました。

・「何がほしいか」ではなく、「なぜそう感じるのか」という背景に耳を傾けること

・ご参加いただく方を、ともにつくる仲間として迎えること

・いただいた声を、今後の検討に活かせる形で受け止めること

また、ご参加いただく皆さまが安心して経験や思いをお話しいただけるよう、当日の環境や進め方にも配慮しました。

4. 当日の進め方

当日は、たかつき未来パークの話から始めるのではなく、これまでのお出かけの経験を振り返るところから始めました。

（1）これまでのお出かけを振り返る

これまでの外出や施設利用の中で感じてきた困りごとや、よかった経験について振り返っていただきました。

（2）「行きたい」と「行ける」の境界を考える

「行ってみたい」という気持ちが、実際に「行ける」という判断につながるために、何が大切なのかを考えていただきました。

（3）たかつき未来パークでの過ごし方を考える

施設の全体像をご覧いただき、実際に利用する場面を想像しながら、期待や不安について対話しました。

こうした流れを通じて、参加者の皆さまの暮らしの経験をもとに、安心して利用するために大切な視点を整理しました。

5. 対話から見えてきたこと

いただいた声は、個別のご要望として並べるのではなく、その背景にある不安や願いも踏まえて整理しました。

今回の対話からは、安心して利用できるかどうかは、必要な設備の有無だけでなく、行く前に

見通しを持てること、その時々の状態に応じて過ごし方を選べること、家族が同じ場で過ごせること、周囲に自然に受け止めてもらえることなど、施設での体験全体に関わることが見えてきました。

こうした視点について、現在の設計・計画との照合を行い、今後の運営や情報発信等の検討にも活かしています。

＜具体例＞

・到着時の負担軽減につながる乗降しやすいスペースと入口までの屋根付き動線
・滞在中の安心につながるトイレ・更衣・ケアに対応できる環境
・段階的に選べる、休む・落ち着く・ケアするためのスペース
・きょうだいも一緒に楽しめる遊び方や空間づくり

6. ご参加いただいた方の声

実施後のアンケートには、ご参加いただいたご家族全員から回答をいただきました。

いずれの方からも「参加してよかった」「自分たちの気持ちを伝えられた」との回答をいただき、たかつき未来パークへの期待や関心についても、全員の方が「高まった」と回答されています。

自由記述では、次のようなご意見をいただきました。

> ・困りごとは過ぎてしまったり、日々の中で忘れてしまったり、気付かないフリをしてしまいがちですが、ワークショップ形式でお話しすることで、改めて気付くことができました。
>
> ・他の方のご家族のお話しうかがえてよかったです。忘れていたような小さいころのこともよみがえってきました。
>
> ・我が子も楽しめる施設を多くの人が作ろうと真剣に考えてくださっていることが分かってうれしかったです。
>
> ・全ての人にとって未来ある素晴らしい施設になるよう願っています。

7. 今回を第一歩として、これからも様々な方との対話を重ねます

今回のワークショップは、たかつき未来パークを「誰もが安心して過ごせる場所」にするために、実際に利用される市民の皆さまとともに考えていくための第一歩です。

今回お伺いした 5 組のご家族の声は、障がいのあるお子さまとご家族すべての経験を代表するものではありません。だからこそ、異なる年齢、暮らし、経験、ニーズをお持ちの方との対話を重ねていくことが重要だと考えています。さまざまな経験が重なることで、また新しい視点が見えてくるものと考えています。

今後も対象を変えながら対話を重ね、いただいた視点を、運営・情報発信・スタッフ対応などの検討に活かしていきます。

たかつき未来パークが目指す「誰もが気軽につながり、支え合い、そして活躍する地域共生社会」の実現に向けて、利用される方とともに考えながら、開館に向けた準備を進めていきます。